

## 1. 第8回検討会の目的

これまでブロック検討会では、『身近な生活環境形成（公共施設）』についての課題・問題点についての意見交換、沿道のまちづくりの特徴であり、つなぎの部分となる『環境施設帯（とまちづくり）の形成』、さらには、将来像の考え方を踏まえたブロックごとの『土地利用方針』などについて話し合いました。

本日は、前回の全体協議会の協議状況の報告を踏まえ、4つ目のテーマであり、国分寺市のまちづくりの特徴でもある『緑・景観形成』について意見交換を行います。

1

## 2. 本日の進め方

### 報告・説明（20分）

本日の進め方  
報告事項(全体協議会等の状況)について  
市の緑・景観に関する取り組み方針について

事務局からの説明  
に対し、全員で共有  
します！

### 意見交換(90分)

意見交換（90分程度）  
5ブロック毎の緑・水等資源の確認  
緑・景観方策として協力可能な内容  
について意見交換

お互いの考えている  
ことを話し合います。  
函面に意見を貼ること  
も可能です！

### 振り返り（10分）

話し合った内容を事務局から  
発表（5分程度）  
振り返りシートの記入

全員で話し合った内容  
を振り返ります！

国3・2・8号線沿道まちづくり将来像検討の流れ

国分寺のまちの姿(状況)

1. 市外へ通勤・通学する住宅都市としての性格
2. 農村の構造を引き継いで、脆弱な道路基盤のまま市街化が進行
3. J R・西武線が行き交う多摩地域の交通の要衝
4. 史跡や農地等の豊かな文化・市街地環境を形成
5. 公園は少ないが、農地・樹林地などの緑は豊か

国3・2・8号線の性格

国3・2・8号線の概要

区 間：府中市武蔵台3丁目  
～ 国分寺市東戸倉2丁目  
延 長：約2.5km  
車 線 数：往復4車線  
道路幅員：36m(その内、環境施設帯20m)

道路の性格

1. 首都圏の広域的な環状道路の一角をなす主要幹線道路
2. 多摩地域における南北方向の主要幹線道路

期待される整備効果

1. 体系的な道路ネットワークの形成を図ることにより、交通の分散による渋滞緩和や交通の円滑化を促す
2. 安全で快適な都市空間を創出し、地域のまちづくりの推進に寄与する

沿道まちづくりの基本的な方向性

1. 道路整備と合わせ、地域の特性を活かした良好な沿道空間をつくる(国分寺市第四次長期総合計画)
2. 農地を保全するとともに、安全で心豊かに暮らせるまちをつくる(都市計画マスタープラン)
3. 公共施設の機能向上と連携の取れたコミュニティや、防災の中心となる空間をつくる(同上)
4. 多様な機能をもつ主要幹線道路の整備とともに、一体感のあるまちをつくる(同上)
5. 地域の歴史や水、緑などの資源を活用したまちをつくる(同上)
6. 環境施設帯と一体となった環境軸を形成する(国分寺都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針・環境軸ガイドライン)

沿道まちづくりを進める上での課題

(全体協議会・ブロック検討会の主な意見)

1. 土地利用  
今の住環境や生活環境に及ぼす影響が心配  
都市農地と住環境との共存について検討が必要  
地域ごとにある程度自由で変化があって面白いまちにしたい  
活気のあるまち、人の集まるまちにしたい  
既存商店街の活性化を図ることが必要
2. 公共施設の再整備  
沿道周辺の既存道路がせまい  
生活動線を確保  
子供たちが安全に通学できる対策が必要  
誰もが安全に渡れる横断施設が必要  
緑が多すぎて見通しが悪いと防犯上問題  
国3・2・8号線の防災軸としての活用について検討すべき  
福祉施設や教育環境、子供に配慮したまちづくりが必要
3. 緑・景観  
国分寺の緑の特徴である屋敷林、樹林地を活かして欲しい  
砂川用水の利活用が必要  
沿道地域も含めたグリーンベルトの検討が必要  
土地利用やまち並みの特性を考慮した緑化方策の検討が必要  
市全体を見据えた緑の保全・創出が必要
4. 環境施設帯  
環境施設帯の整備には沿道の土地利用への配慮が必要  
地域コミュニティの活性化の場にすることも必要  
植栽管理を地域の力でやることも必要

沿道まちづくりを考える視点

(全体の視点)

国分寺らしさ(B)

公の視点(A)

(個別テーマの視点)

住環境の快適性(B)

・住み続けられるまち

・良好な住環境の保全

農(を守る)(B)

・農住が共生するまち

利便性・活力(A、B)

・自由闊達な発展ができるまち

・活気のあるまち

・歩いて楽しいまち

・コミュニティの活性化

交通安全(A、B)

・子供たちの安全を考える

・生活道路の安全確保

・生活動線の確保

防犯・防災(A、B)

・子供たちの安全を考える

・犯罪を誘発しない

・災害に強いまち

福祉(B)

・誰もが暮らせるまち

・ユニバーサルデザイン(バリアフリー)

・子育てしやすいまち

環境・水と緑(A、B)

・緑豊かなまち

・緑との共生

・緑のネットワーク

・植栽管理は地域の力で推進

景観(A、B)

・美しい街並み

・まちと緑の調和

・地区毎に方向性を決めて緑に配慮

沿道まちづくりの基本理念

「土地利用」

- ・沿道やその周辺地域の市街地特性、環境特性を生かしつつ、環境負荷の小さい、持続的な発展が可能な土地利用を検討します。
- ・沿道まちづくりによって、市全体が活性化できるよう、沿道の魅力や価値を高めるまちづくりをめざします。

「暮らし」「住環境」

- ・都市農地と共生した良好な住環境の創出、新たに創出する緑と調和した住環境の保全に努めます。
- ・誰もが暮らせる環境の向上など市民生活を豊かにするまちづくりをめざします。

「活力」「交流」

- ・道路ネットワークの形成による利便性の向上など道路の整備効果を楽しみ、市民が自由闊達に活動しながら、来訪者との交流を進め、活気のあるまちづくりをめざします。
- ・生活動線の確保などにより、市民同士の交流やコミュニティの強化につながるまちづくりをめざします。

「安全」「安心」

- ・安全な横断路の整備、通学路や生活道路の確保、防災まちづくりの推進、犯罪が起きにくい環境整備をすすめます。
- ・高齢者や子どもたちの元気な声が地域に響く、安全・安心なまちをめざします。
- ・ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを推進し、市民だけでなく来訪者にもやさしいまちづくりをめざします。

「緑」「景観」

- ・道路とその沿道地域を、市域の南北に貫く「環境軸」と捉え、地域の特性に応じて緑や美しい街並みを創出します。
- ・国分寺の原風景となる「国分寺崖線」や「玉川上水」などの地域資源の保全しながら、これらを結ぶ緑の都市ネットワークを形成します。
- ・市民の協力のもとに、環境共生型の緑豊かなまちづくりをめざします。

環境軸とは：

公園緑地や道路、河川のみどりとこれら沿線のまちづくりで生まれるみどり等を組合せ、都市施設のみでは成し得ない厚みと広がりをもったみどり空間のこと

将来像

人が躍る

地域が輝く

緑豊かなまちづくり

## 参考1：沿道まちづくりの基本的な方向性

### 道路整備と合わせ、地域の特性を活かした良好な沿道空間をつくる

少子・高齢化、人口減少時代に入ることから、これまでのような通勤・通学が便利な住宅都市としての顔だけでなく、来訪者との交流や情報が行き交うようにぎやかで活力があるまち、住民同士が絆を深め、地域のつながりが感じられるまち、環境に負荷が少なく安全・快適に暮らせるまちなど、今後も住み続けたいまち、ふるさと国分寺づくりを推進するため、地域の特性を活かした良好な沿道空間を創出する。

(上位・関連計画における位置づけ)

「健康で文化的な都市 住み続けたいまち、ふるさと国分寺」

(第四次国分寺市長期総合計画 将来像)

市の骨格軸にふさわしい沿道環境と地区の特性を活かした、より良好な沿道空間の創出を目指す。

(第四次国分寺市長期総合計画)

都市計画道路の整備と連携した沿道の良好な市街地環境を目指す。

(都市計画マスタープラン)

### 農地を保全するとともに、安全で心豊かに暮らせるまちをつくる

沿道地区は、現在も市街化が進行している地域であり、農地や樹林地の保全を推進していることから、このような環境と調和しながら、環境への負荷が少ない土地利用を前提として、安全で心豊かに暮らせる将来の土地利用の検討を進めるものとする。

(上位・関連計画における位置づけ)

豊かな自然環境と調和し、環境への負荷の少ない土地利用を推進する

国3・2・8号線の整備とともに、周辺の道路体系、地域分断や沿道環境への配慮、土地利用のあり方を検討する。

(以上、都市計画マスタープラン)

### 公共施設の機能向上と連携の取れたコミュニティや、防災の中心となる空間をつくる

沿道地区は、狭あいな道路や行き止まり道路などが存在し、災害に対して脆弱であることから、国3・2・8号線の延焼遮断機能を活用した防災軸を形成することで災害に強いまちづくりを推進する。また、国3・2・8号線の整備を契機とした地域住民のふれあい・交流の場づくりや活動の推進によるコミュニティの強化や生活道路などの公共施設の機能向上を図る。

(上位・関連計画における位置づけ)

国分寺3・2・8号線は、環状・放射方向の避難・輸送を担う幹線道路等により形成される広域的な都市構造からみて骨格的な防災軸と位置づけ、機能配置を行う。

(国分寺都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針)

災害に強いまちの骨格となる沿道空間を整備する。

延焼遮断帯や避難・救援路としての機能をもつよう配慮し、適正な幅員を確保する。

公園や公共施設や農地を活かして、人と人とのふれあいの場をつくる。

(以上、都市計画マスタープラン)

## 多様な機能をもつ主要幹線道路の整備とともに、一体感のあるまちをつくる

これまで国分寺市は、通勤・通学のための鉄道利用が進展してきた。今後、国 3・2・8 号線の整備により市内の道路ネットワークが強化されることになる。そこで、来訪者に対しての市内への受け入れやすさや、市内の移動円滑化を図り、利便性が向上した地域として一体感のあるまちづくりを推進する。

### (上位・関連計画における位置づけ)

広域的な交通を支え、南北の主要な骨格軸として整備する。

地域の一体感を保つために、安全快適で緑豊かな歩行空間を活かして、地域の生活道路ネットワークづくりを進める。

誰もが安全に歩いたり、車椅子で移動できるゆとりある歩行空間を確保する。

(以上、都市計画マスタープラン)

## 地域の歴史や水、緑などの資源を活用したまちをつくる

これまで育んできた地域の資源や市街地環境を損なうことがないように、国 3・2・8 号線の整備にあたって十分な配慮を行う。具体的には、国分寺崖線や砂川用水、武蔵野の面影を残す都市農地や屋敷林との連携を図り、歩いて楽しい「こくぶんじ恋のみち」づくりを推進する。

### (上位・関連計画における位置づけ)

水や緑、歴史の資源に触れ、散策ができる「こくぶんじ恋のみち」として整備する。

沿道敷地において、農地を活かしながら緑化を重点的に図るなど、水と緑の軸として環境に配慮する。

(以上、都市計画マスタープラン)

## 環境施設帯と一体となった環境軸を形成する

国 3・2・8 号線の整備を契機として、国分寺のまちの魅力の 1 つである民地内の緑のあり方について、市民と一緒に考える機会であることを PR し、地域への関心を喚起する。その上で、国分寺市内の緑のネットワークの骨格となるよう、環境施設帯と一体となった環境軸の形成めざす。

### (上位・関連計画における位置づけ)

環境施設帯への植樹帯の設置などにより、豊かな街路樹と広幅員の歩道を有する快適で環境にやさしい道づくりを進め、公共空間を活かした新たな緑の骨格形成を図る。

(国分寺都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針)

環境施設帯と沿道が一体となったみどり豊かで良好な沿道空間を創出する街並みづくりを行う。

(環境軸ガイドライン)

沿道の土地利用が更新される機会を捉えて、道路空間と沿道の土地利用が調和した統一感のある美しい街並みを形成する。

(東京都景観審議会)

緑豊かな都市空間の骨格となる街路樹、植栽を充実させる。

沿道敷地において、農地を活かしながら緑化を重点的に図るなど、水と緑の軸として環境に配慮する。(再掲)

(以上、都市計画マスタープラン)

参考2：沿道まちづくりを考える視点

第4回全体協会で検討した目指すべき将来像と今回提案する沿道まちづくりの基本理念との対応は以下のとおり。

土地利用を始め、すべての基本理念の基本となる視点	基本理念：「暮らし」「住環境」に対応	基本理念：「安全」「安心」に対応
	基本理念：「活力」「交流」に対応	基本理念：「緑」「景観」に対応

視点：利便性・活力

- ・ 色々な店（クリニック等）が出来て交流することで地域の活性化につながる
- ・ 規制をしない自由なまち（ある程度自由）生活の利便性を（ゾーニング）を上げる
- ・ お年寄り、子供など多様な世代を応援（子育ての人のためのお店がある）
- ・ のびのびできる、歩いて楽しいまち、ジョギング・散歩などで使える
- ・ コミュニティの活性化、活気のあるまち
- ・ まちと緑の調和
- ・ 緑があって住宅ばかりでなく色々な暮らしを支える為の店があるまち
- ・ 通過する方の立ち寄ることもあるけど、沿道に住む方のための土地利用
- ・ にぎわいの使い方（商業/居住）を整理すべき

視点：公の視点～空間のつくり方～

- ・ 道路が出来てから考える可能性も残して欲しい（自由も必要）
- ・ 清々しい開放感などという大きな想像
- ・ 駅へのアクセス
- ・ 東西の分断が大きいので適宜、横断させることも大切
- ・ 郊外型の大型店舗がくるような可能性はかなり厳しい

視点：防災・防犯

- ・ 逃げ道と救助に利用する時の使い方のバランスを図る
- ・ 歩道の使い方（災害時や防犯対策）が重要
- ・ 歩道は分離せずに使える方が防災上は良い
- ・ 現況の道路で細い道路について安全を考えるのも必要
- ・ 防災軸とつながるまちづくりの部分は、間口を広くとることで対応
- ・ 細い道路は防災の面から間口を広げることが大事
- ・ 子どもたちが安全でのびのびできるまちづくりということで、沿道に広い公園をつくってほしい（避難場所にも活用できる）
- ・ 防災は平常時と非常時を分けて考えるべき

視点：環境（生活環境含む）

- ・ 緑豊かなまち、緑のネットワーク
- ・ 雑草とりなどのメンテナンスは地域の方で
- ・ 相続の時に緑が減るのはせつない
- ・ コミュニティ形成の面から店舗も必要
- ・ 建物と緑との調和（ゾーニング）
- ・ 高度利用/拠点
- ・ 国3・2・8号線を活かした周りのまちづくり
- ・ ミニ開発を地区計画で規制
- ・ 開発行為等指導要綱だけでは不十分

A班の考える将来像は・・・

自由な暮らし・環境への調和に配慮した可能性のあるまち

[キーワード]

- ゾーニングとのイメージを持つことが大事
- バリアフリー
- 開放的で生活と関わる道路
- 高齢社会に対応した道路（子供にも安全）

視点：交通安全

- ・ バリアフリーを第一に
- ・ 交通安全宣言市
- ・ 安全・安心
- ・ 子供からお年寄りまで・マナーの向上も大事
- ・ 利便性と安全性のバランスのとれたまちづくりが重要
- ・ 信号のバランス（平面交差）右左折の処理
- ・ 学生が多いところは自転車も多いので対応した道路
- ・ 交差点間に1箇所程度の横断歩道が欲しい 東西連絡
- ・ 混雑（渋滞）しない道路（工事やメンテナンスが原因で混むのは嫌）
- ・ 横断歩道は動線的に必要（100～150m毎に）
- ・ 横断歩道は最小限でよい。トラック等の停止、発進により騒音が発生する

視点：景観

- ・ 美しいまち
- ・ 武蔵野の面影
- ・ 出来上がって“良かったな”となる大テーマの設定が必要
- ・ 一定の自由度も必要
- ・ 地区計画でミニ開発などを規制（500㎡以上：条例，500㎡以下：指導要綱）
- ・ 住・楽などゾーニングを導入し、バランスのとれた街並み
- ・ 高い建物でも、緑に配慮したものを作っていけば良い
- ・ 地区ごとの方向性（ゾーン）を決めて緑に配慮
- ・ 道路自体で緑が分断されるので緑地帯は、統一のとれた（バランス感）緑であるべき
- ・ 街路樹について、将来の子どもたちの誇りになるような、桜の並木が欲しい
- ・ 農地利用の方針をふれておくべき

土地利用を始め、すべての基本理念の基本となる視点	基本理念：「暮らし」「住環境」に対応	基本理念：「安全」「安心」に対応
基本理念：「暮らし」「住環境」に対応	基本理念：「活力」「交流」に対応	基本理念：「緑」「景観」に対応

**視点：利便性・活力**

- 賑やかなまち
- 賑わいの創出
- 活気のあるまち
- 交流空間
- 賑わいについては、部分的に必要なところもあるので、活力という言葉でどうか
- 移動のしやすさ
- 人が集まる
- コミュニティの活性化

**視点：住環境の快適性**

- 住み続けられる
- 暮らしやすい
- 歩いて楽しいまち
- 歩行者と自転車を大切にしたいまち
- 緑と景観だけでなく、住環境の快適性も必要
- 住環境の保全
- 良好な住宅地

**視点：国分寺らしさ**

- 歴史文化
- 誇りを持てる
- 品格のある
- 武蔵野の面影
- 武蔵野らしさではなく国分寺らしさをどう作るか
- 武蔵野の原風景
- 国分寺らしさ
- 静かなまち
- 環境にやさしい

**視点：安全・安心**

防災・防犯

交通安全

- 通り抜けができないまち
- 自転車利用のしやすさ
- 子供たちの安全
- 移動のしやすさ
- 犯罪を誘発しない
- 防災軸
- 災害に強いまち
- 緑が多くなると暗くなるので、ただ、緑をつなげばいいというものではない(夜の通勤・通学で人気がないのは問題)
- 交通問題が重要(市街地や周辺は道路がすべて分断される対策)
- 国分寺には、大きい道と細い道しかない、それを繋ぐ道路も必要
- 生活道路を脅かされないようにして欲しい
- 交通体系を考えるべき(Uターンの問題)

**B 班の考える将来像は・・・**

くらし・環境・豊かさ・いきいき・輝く  
+  
をつなぐみち・はぐくむみち

**[キーワード]**

- |                          |               |
|--------------------------|---------------|
| まちの価値を高める                | 歩いて楽しい歩道      |
| 人のつながりを育むまち              | 新たな出会い        |
| 幹線道路とくらしの共存              | 国分寺に住みたいと思うまち |
| 国分寺市民のためになる道路            | 大学通りのように      |
| 良好な住環境のもとで豊かなくらしが続けられるまち |               |

**視点：農(を守る)**

- 持続可能な発展
- 農住が共生する
- 農の緑をどう考えるか

**視点：福祉**

すべての人にやさしい

- 子供からお年寄りまで
- バリアフリー
- 子育てしやすいまち
- 安心して安全に子供からお年寄りまで暮らせることも必要(福祉も含む)

**視点：水と緑**

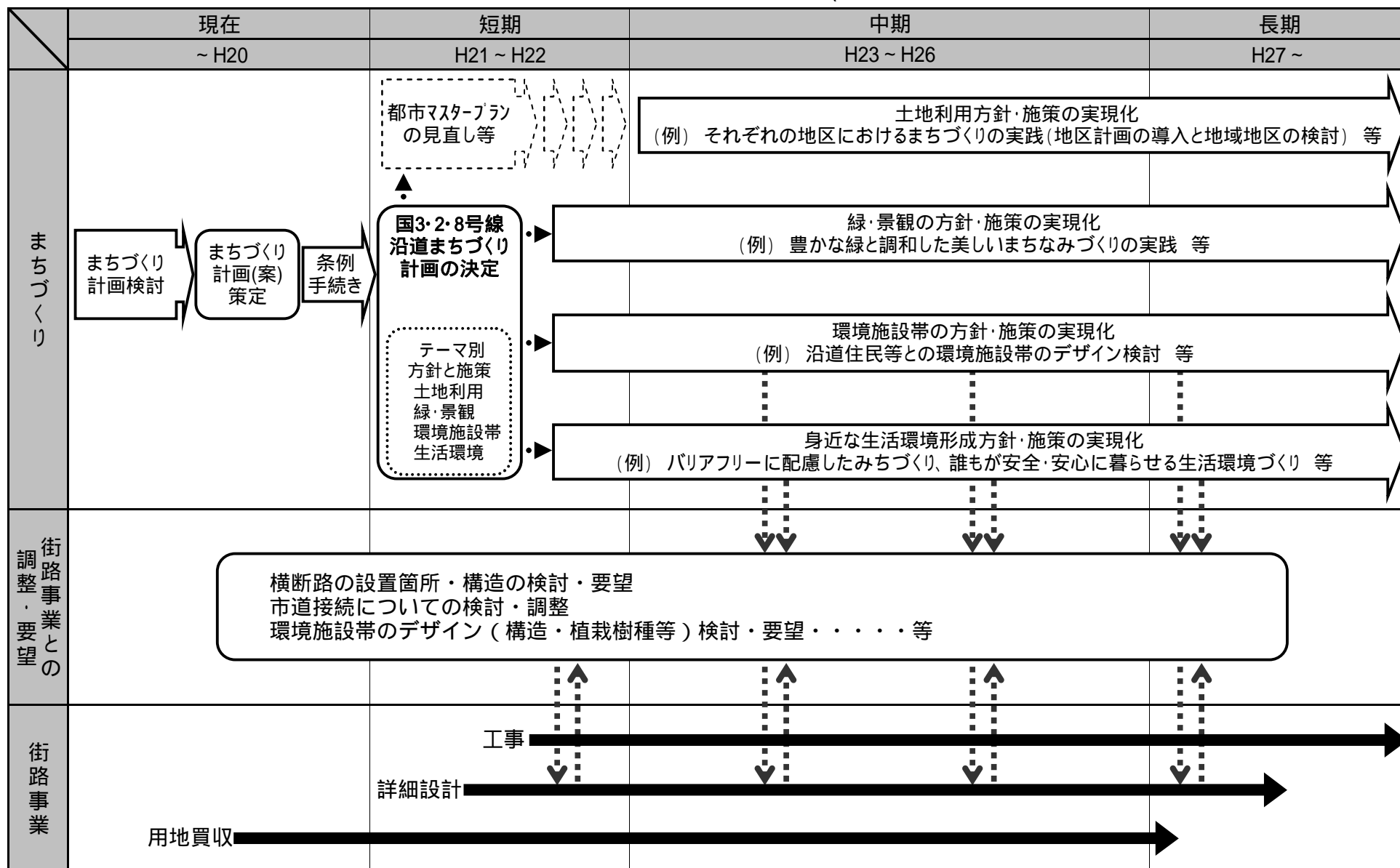
- 緑のネットワーク
- 自然を満喫
- 緑との共生
- 緑の美しさ
- 緑豊かなまち

**視点：景観**

- まちと緑の調和
- 美しいまち街並み
- 景観と緑の美しさが重要。
- 建物、サイン、緑がすべて美しいと感じるものにしたい
- この道に入ったら、ああいい道だというものにしたい



## 今後のスケジュール(素案)







## テーマ別まちづくりの基本方針と将来像（案）

### 沿道まちづくりの基本理念

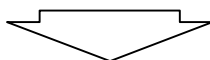
「土地利用」

「暮らし」「住環境」

「活力」「交流」

「安全」「安心」

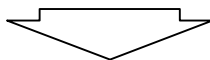
「緑」「景観」



### まちの将来像（案）

ひとが躍る 地域が輝く 緑豊かなまちづくり

国3・2・8号線沿道地区では、基本理念・将来像で示した「みちづくり」「まちづくり」を地域のみなさんと行政の協働で行うことにより、沿道地区への誇りと愛着の醸成を図り、「いつまでも住み続けたいまち・ふるさと国分寺づくり」を進めていきます。



将来像の実現のために・・・

### テーマ別まちづくり基本方針（案）

#### 土地利用方針

1. 多様な土地利用が調和した共生市街地の形成
2. 都市農地と共生する良好な住環境の保全・創出
3. 活力と交流を促すまちづくり

#### 緑・景観形成方針

1. 水・みどり資源の保全・活用
2. 環境施設帯と連携した環境軸の形成
3. 緑と調和した魅力ある街並みの形成

#### 環境施設帯形成方針

1. 沿道の特性に応じた環境施設帯の整備
2. 魅力ある歩行者環境づくり
3. 市民交流を深める場としての活用

#### 身近な生活環境形成方針

1. だれもが元気に暮らせる生活環境づくり
2. 安全・安心に暮らせる生活環境づくり

# 1. 土地利用方針（案）

## (1) 土地利用の全体方針

国3・2・8号線沿道は、国分寺市のまちづくりの骨格を形成するものであり、広域的な交流や地域住民同士のつながりを深めることなど、地域の活力の向上などが期待されている。

そこで、沿道まちづくり全体としては、市民にとって十分に安全・安心であり、環境にやさしく快適で利便性の高い多様なニーズに応えることが可能なまちづくりを目指す。

なお、立体構造区間では、側道を使って、沿道との一体的な土地利用を図る。

また、沿道の背後地については、都市農地と低層住宅が調和した良好な住環境を保全・形成することで環境への負荷が小さく、持続的なまちづくりを推進する。

これらを通じて、地域の魅力や価値を高め、国分寺市全体が活性化するようなまちづくりを目指す。

## (2) 基本方針（例示）

### 1. 多様な土地利用が調和した共生市街地の形成

国分寺市の市域を南北に結ぶ国3・2・8号線の沿道には、都市農地や、低層な住宅地、商業施設など、様々な土地利用が行われている。

こうした状況に、国3・2・8号線が整備されることで、新たに柔軟な土地利用への対応が期待できることから、これまでの土地利用を構成してきた都市農地や屋敷林などの資源と住宅地が共生した市街地の形成を目指していく。また、新たに期待される商業・交流施設などについては、周辺の住環境に配慮した土地利用の検討を行う。

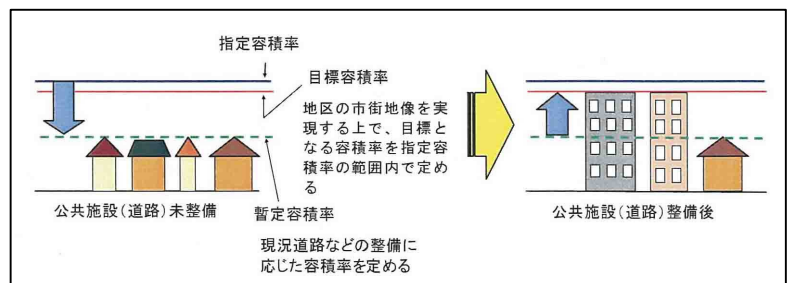
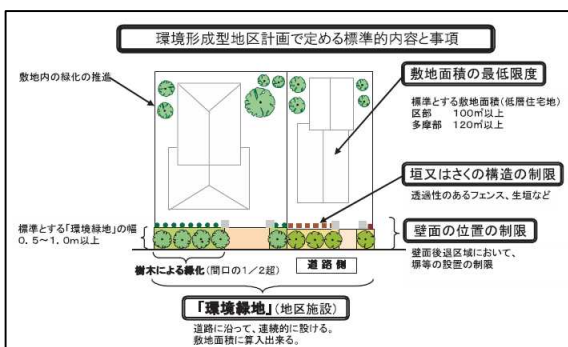
### （取組みの一例）

地区まちづくりのルール化（地区計画の導入と地域地区の検討）

無秩序な開発の抑制と良好な開発の推進

環境への負荷を減らす循環型社会を実現するしくみづくりの検討・導入

まとまりのある土地の利用計画の検討



環境形成地区計画のイメージ・事例



誘導容積型地区計画のイメージ・事例

## 2. 都市農地と共生する良好な住環境の保全・創出

国分寺市の住環境の優れている部分として、まわりに広がる都市農地や、屋敷林などによる緑のアメニティがある。

一方、都市農地の一部が宅地化を進めてきた経過を考慮すると、こうした恵まれた住環境を適正に保全するうえでも生活基盤施設である道路や、公園、緑地など公共的な空間の創出について検討を進め、都市農地と共生した住環境の保全・創出を目指していく。

(取組みの一例)

都市農地の保全に向けた検討

農住共生方策の検討

## 3. 活力と交流を促すまちづくり

国3・2・8号線は、多摩地域を南北に結ぶ骨格幹線道路である。

街路整備に伴い市外から多くの来訪者が見込まれるため、沿道地区の魅力や価値を高める土地利用について検討を行い、地域の活力と交流の推進を図ることとする。

(取組みの一例)

生活利便性を増進し、地域住民の交流を促す商業空間の創出

地域の交流、来訪者との交流を促す場の創出

農畜産物をはじめとする地場産物の販売、野菜販売所の利用を通じた交流促進

まちの活性化について話し合う場の創出



緑と調和した沿道空間( 国立大学通り )



緑と調和した沿道空間( 表参道 )



交流の場イメージ例

## 2. 緑・景観形成方針（案）

### (1) 緑・景観形成に向けた全体方針

周辺に点在する公園等を、既存の街路樹や用水路周りの緑地、民地の敷地内緑地などを  
つなぎ、新たに水と緑のネットワークを形成する。

また、ネットワークの結節点となる部分については、交流拠点として位置づけ、地域の  
コミュニティ強化に努める。

さらに、沿道の土地利用に合わせて、散策やサイクリングが楽しめる景観づくりを行い、  
まちの魅力を高めていく。

### (2) 基本方針（例示）

#### 1. 水・みどり資源の保全・活用

国3・2・8号線の整備が予定される周辺には「砂川用水」「国分寺崖線」「屋敷林や社  
寺林」などの、国分寺の原風景を構成する文化、自然資源がある。

こうした地域資源の保全や活用を図りながら、国分寺市の新たな水と緑のネットワー  
クの形成を目指していく。

#### （取組みの一例）

原風景となる緑の保全

砂川用水の活用方策の検討

水・みどり資源を活用した散策ルートづくり



五日市街道沿道



すぎのこ公園・内藤神社



砂川用水の活用イメージ例

## 2. 環境施設帯と連携した環境軸の形成

国3・2・8号線は、両側に10mの環境施設帯を有する骨格幹線道路であり、環境軸の形成に大きく寄与することとなる。

一方、沿道周辺には生産緑地など都市農地が点在しており、生垣、壁面緑化など更なる民地内の緑を創出し、土地利用の工夫に併せながら保全・活用を行い、環境軸の強化を推進していく。

環境軸とは：

公園緑地や道路、河川のみどりとこれら沿線のまちづくりで生まれるみどり等を組合せ、都市施設のみでは成し得ない厚みと広がりをもったみどり空間のこと

(取組みの一例)

緑化率のルール化

ブロック塀の生垣化等、既存住宅の緑化推進

土地利用・建物用途に応じた多様な緑化方策の検討・導入

身近な公園の整備推進

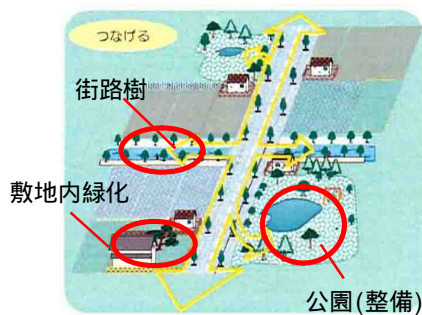
道路に沿った緑化空間の形成



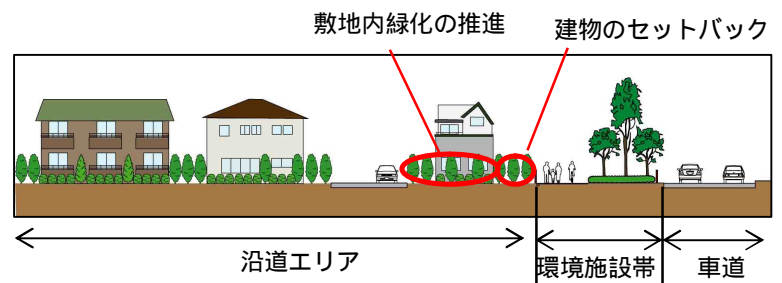
建築協定による民地内緑化  
イメージ例(戸倉4丁目)



身近な公園イメージ例



環境軸平面イメージ例



環境軸断面イメージ例

### 3. 緑と調和した魅力ある街並みの形成

国3・2・8号線が整備されることで低層な住宅地や、緑豊かな都市農地など奥行きのある土地利用に変化が生まれる。

そこで、景観計画などにおいて市民がイメージしている大切にすべき風景については、貴重な地域資源として保全を図ることができるよう、緑と調和した魅力ある街並みの形成を目指していく。

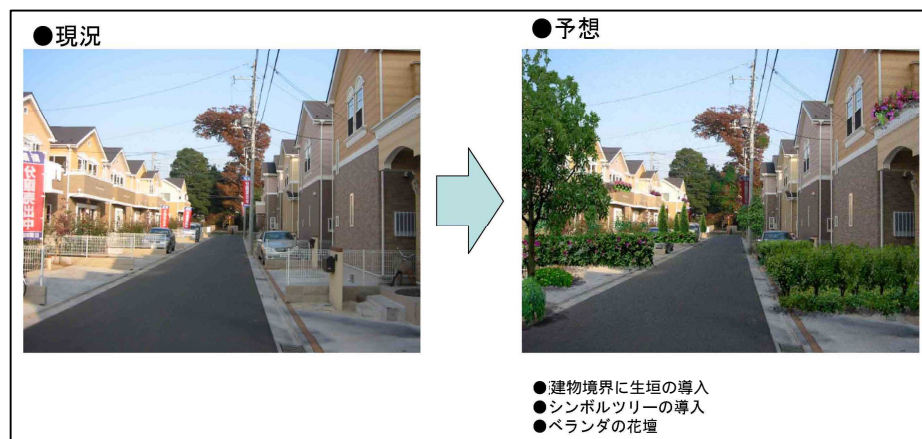
(取組みの一例)

外壁等の色彩コントロール

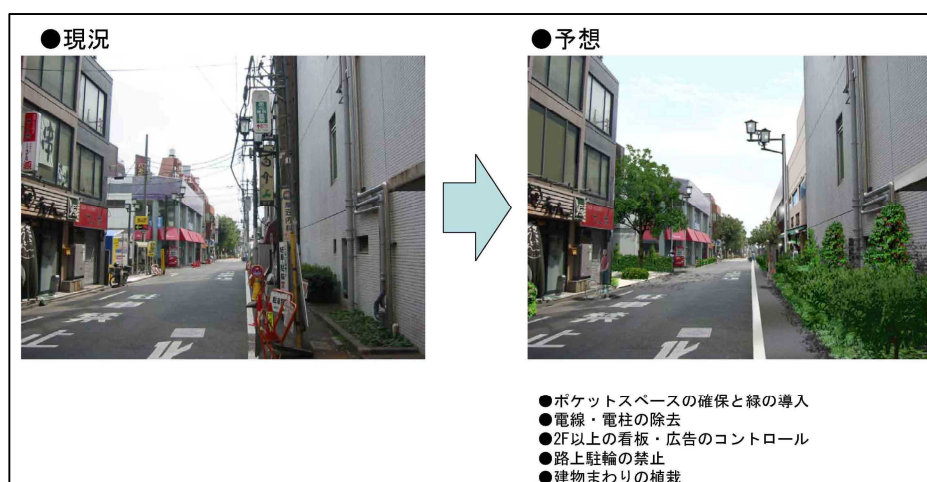
建物の絶対高さのルール化

屋外広告物の色彩・形状・高さのルール化

無電柱化の促進



住宅地における魅力ある街並みイメージ例



にぎわい拠点における魅力ある街並みイメージ例

## 環境施設帯形成方針（案）

### (1) 環境施設帯形成に向けた全体方針

環境施設帯は沿道の土地利用特性や街路空間としての連続性に配慮するとともに、災害時の避難路・延焼遮断帯として機能を有する防災軸、緑豊かな環境軸を形成する。

また、環境施設帯を活用した美しい街並みの創出、生活の利便性の確保などを含めた魅力ある沿道環境づくりを推進する。

さらに、地域コミュニティの強化を図る交流の場として活用を図っていく。

### (2) 基本方針（例示）

#### 1. 沿道の特性に応じた環境施設帯の整備

国分寺市内を南北に結ぶ国3・2・8号線の両側に配置される環境施設帯は緑の連続した環境軸を構成するものである。

沿道土地利用の利便性や連続する防災機能の確保に配慮した環境施設帯の配置を図る。その上で、沿道地区の特性に応じた生活感のある空間づくりや、緑豊かな四季を楽しむことのできる空間づくりなど、環境軸の機能強化に努めていく。

#### （取組みの一例）

沿道の土地利用に応じた環境施設帯のデザイン検討・整備



副道イメージ例



緑が多いイメージ例



見通しのよいイメージ例



## 2. 魅力ある歩行者環境づくり

国分寺市内で最も長く、広い歩行区間を形成することから、多くの市民がまちなかを散策し、地域の魅力を再発見することができる、安全で安心して歩ける環境づくりを目指す。また、来訪者にとっても五感で楽しむことのできる歩いて楽しい歩行空間として、沿道の土地利用との連携を図っていく。

(取組みの一例)

- バリアフリーに配慮した歩行者・自転車空間の整備
- 季節感を感じる植栽の導入
- 公共サイン・ストリートファニチャーの整備
- 歩いて楽しめるしかけづくり



歩行者・自転車空間整備イメージ例

ストリートファニチャー整備例  
(武蔵台緑道)

## 3. 市民交流を深める場としての活用

国3・2・8号線の環境施設帯は、市民が身近に行き交える空間の創出することが期待されることから、市役所や、小学校などの人の集まりやすい施設の周りを中心に歩いて楽しい、愛着のわく、沿道であり続けるための環境づくりを推進していく。

(取組みの一例)

- 植栽等の管理への市民参加
- 地域住民の交流の場としての活用
- 国分寺のシンボルロードとして活用した地域活性化策の検討



子どもたちによる植栽管理例



沿道との連携による交流整備イメージ例

## 1. 身近な生活環境形成方針（案）

### (1) 身近な生活環境形成の全体方針

防災まちづくりの推進、犯罪が起きにくい環境整備などを通して、高齢者や子どもたちの元気な声が地域に響く、安全・安心なまちを目指す。また、バリアフリーのまちづくり・道づくりの推進や公共交通機関の導入を図るなど来訪者にとっても優しいまちづくりについて検討する。

### (2) 基本方針（例示）

#### 1. だれもが元気に暮らせる生活環境づくり

多くの市民が国3・2・8号線を利用し、利便性や快適性が享受できるように努めるために歩いてよし、ぶんバスに乗ってよし、などの移動が円滑に行えて自然と笑顔を広がるまちづくりを目指していく。

#### （取組みの一例）

バリアフリーなまちづくり・みちづくりの推進  
公共交通網の連携強化



植栽帯と合わせたベンチの整備



分かりやすいサインの設置例



歩きやすい歩道整備例



公共交通としてのぶんバス

## 2. 安全・安心に暮らせる生活環境づくり

子供からお年寄りまでの誰もが、いつまでも国分寺市に住み続けることを可能にする、安全で安心なまちづくりを目指していく。

そのために、国3・2・8号線からの通過交通流入を防止することで生活道路の交通渋滞を防ぐものとする。また、国3・2・8号線の横断施設の整備や見通しの確保などにより交通事故を未然に防ぐ交通安全対策を進めていく。

さらに、沿道周辺の一部のエリアでは都市基盤が脆弱な地区もあることから、都市農地が混在する不燃化に強い地区や共同化による不燃化と合わせて狭い道路を解消する地区などの特性も配慮しながら災害に強いまちづくりを推進していく。

(取組みの一例)

- 生活道路への通過交通流入の防止
- 誰もが安全に渡ることができる横断施設の整備
- 見通しの良い道路空間の整備
- 良好な教育環境の保全
- 建物更新と合わせた不燃化の促進、細街路の改善
- 声をかけあうまちづくり



狭隘道路が拡幅された事例(本多5丁目)

